

あいち農産物生産流通レポート

2021年10月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・ 小ギクのバラ受け出荷で産地の維持を (新城設楽農林水産事務所)	1
◎ 東日本情報	
・ 令和2年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言(その2) (東京事務所)	2
◎ 西日本情報	
・ 愛知県産ブランド米「愛ひとつぶ」について (園芸農産課)	4
・ あいちのフルーツコンテスト及びフェアを開催！ ～愛知県No.1の「ぶどう」「いちじく」を決定～ (園芸農産課)	5
◎ フラワーページ	
・ 駅構内に「花の自動販売機」を設置 ～いつでも手軽に花のある生活を～ (東京事務所)	7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の10月の見通し(県内市場)	22

※今月「情報サロン」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

小ギクのバラ受け出荷で産地の維持を

新城設楽農林水産事務所

J A愛知東管内では、特産の小ギクの集出荷にバラ受け出荷に切り替えた。この出荷方法では、一定レベルでの選別が可能となり、出荷物の品質が安定し、市場評価が高まった。また、生産者は出荷調整作業から解放され、空いた時間を有効活用して作付面積の拡大が可能となった。

1 バラ受け出荷の導入

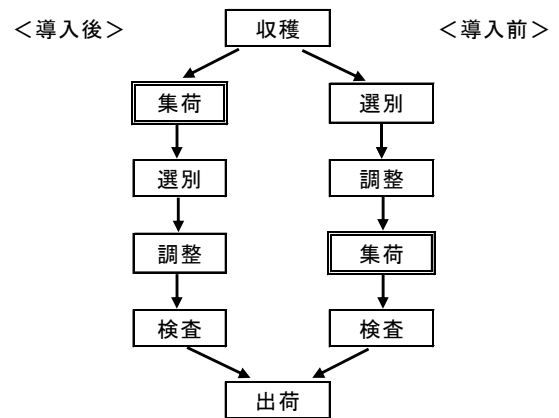
J A愛知東管内の令和2年度の小ギクの出荷量は42万本、販売額1,210万円で、県下3位(令和元年度県調査実績)の規模を誇っている。

管内では、従来、各農家が収穫した小ギクを選別・調整した後に集荷場に持ち寄る方法で出荷が行われていたが、農家の高齢化が進み、選別・調整作業が負担となっていた。

そこで、農家からの要望を受け、平成29年に選別ラインを導入しバラ受け出荷が始まった。

バラ受け出荷では、各農家は収穫後に規格外(出荷不可)の小ギクを一次選別して、集荷場に持ち寄るだけで出荷完了となる(図1)。また、選別・調整の作業はJ Aが統一して行うことにより、市場の評価が高まった。

現在では、出荷農家の40%がバラ受け出荷に参加しており、生産者、市場関係者双方から好評価を得ている。



※集荷までは農家が作業、集荷以降はJ Aが作業

図1 従来とバラ受けの集出荷方法の違い

2 バラ受け出荷導入の効果

農家の高齢化が進む中、バラ受け出荷を導入してから小ギクの出荷農家数と作付面積が維持されている。産地として、今後も作付面積の集積・拡大や出荷物の付加価値化などの取組を行い、収益面や農地活用の面で新規参入者に魅力のある生産・出荷環境を目指していく。



バラ受け



出荷作業

令和2年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言（その2）

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

「京浜市場愛知県野菜連絡会」（構成：首都圏の青果卸売会社 30 社及び J A あいち経済連、愛知県）がとりまとめた令和2年度の愛知県産主要野菜の販売概要から、前回9月号ではキャベツ、トマトについて取り上げました。今回は、ミニトマトとおおばについて取り上げます。

1 ミニトマト

（1）令和2年作の販売経過

販売開始の10月から11月中旬までは堅調な販売が続いたものの、11月下旬以降は入荷量の増加に加えて、他の野菜品目も順調な入荷となったことから、単価は下押しでの販売が続きました。年

明けは入荷量の落ち着きとともに相場も回復傾向で推移したものの単価は前年を下回りました。5月以降は大きな入荷の山がなく前年を上回る単価推移となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により業務需要が落ち込み、量販店など小売の占める割合が高い販売となり、単価は伸び悩みました（図1）。

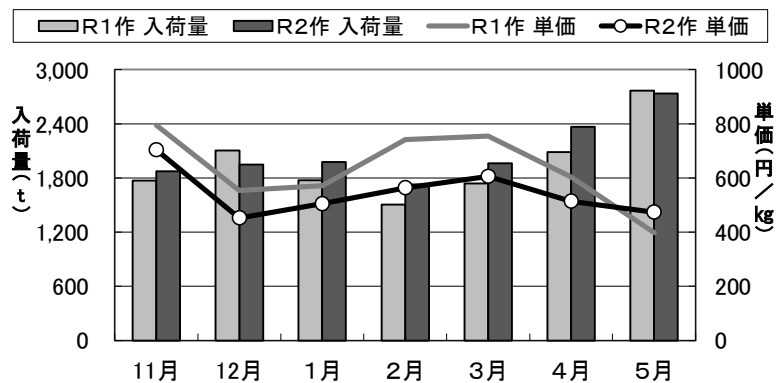


図1 ミニトマトの総入荷量と単価の年次別推移

（2）競合産地の出荷動向

熊本県産については増加傾向、千葉県・群馬県・茨城県・静岡県産については横ばい傾向、宮崎県産については微減傾向での推移となっています。

（3）販売・消費動向

量販店はパック主体とバラ主体で店舗によってすみ分けができていますが、販売方法やアイテムも多様化してきており、暖候期については量目を増やして販売する手法が多く見受けられます。業務については、パック、バラともに顧客のニーズにより選択されています。

（4）卸売会社から愛知県への提言

- ・作付面積の維持・拡大による出荷量の確保
- ・パックでの出荷量の維持・拡大
- ・厳寒期における色揃えの徹底による食味の高位平準化
- ・暖候期における色揃えの徹底による安定した品質の維持

2 おおば

(1) 令和2年作の販売経過（対象期間：令和2年6月～令和3年5月）

令和2年6月は前年より多い入荷量でしたが、7月は前年並で価格を上げて高値で販売できました。8月はお盆に向けた予約相対販売があり、値決め価格は7月の価格と同程度であったため価格を維持しましたが、高値の反動で20

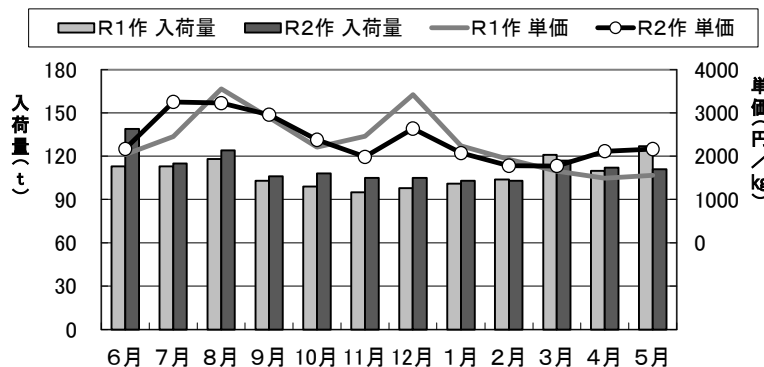


図2 おおばの総入荷量と単価の年次別推移

日過ぎに暴落しました。9～11月は前年より多めの入荷量が続き、9、10月は前年より高く販売できましたが、新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴う業務需要の減少や野菜全体の安値基調につられ11月は前年の81%の単価になりました。12月も多めの入荷量で価格はなかなか上がらず、最後の週になって注文が急増したことで値決め相対販売の価格に届いた一方、量販店の注文は前年並も、外食などの業務関係の注文が少なく、月単価としては前年の77%と厳しい販売状況でした。1月以降緊急事態宣言の中、前年並かやや少ない入荷量でしたが、3月まで厳しい販売となりました。4月以降は、緊急事態宣言が出ていましたが、前年と比較すれば、量販店を中心に業務関係も注文があり、やや良好な販売になりました（図2）。

(2) 競合産地の出荷動向

茨城県産は、前年とあまり変化ありませんが、入荷量が不安定なことが多く顧客が減り始めています。

大分県産は、日量1000ケース前後で大きな変化はありません。関東向けの出荷はほとんどなく、九州地区メインで、関西市場までの出荷がほとんどです。

高知県産は、前年とほとんど変化なく、現状維持のようです。

中国産は、1000ケース前後の入荷実績で、昨年とあまり変化ありません。

(3) 販売・消費動向

量販店中心の販売に変化はなく、刺身のツマとして利用する鮮魚関係も昨年と変わらず順調です。

新型コロナウイルス感染症の影響で契約販売の数量は前年に減ったまま戻っておらず、同感染症の終息後も元には戻らないと推測される中、新たな販売先の開拓が必要と思われます。

(4) 卸売会社から愛知県への提言

愛知県全体で安定した入荷が続いていますが、厳しい販売状況は今後も続くと思います。中国対策を含め、顧客の取り戻しと、新規の販売先の開拓のために、価格を含めて柔軟に対応することで、少しでも契約を増やすように取り組んでもらいたいと思います。

愛知県産ブランド米「愛ひとつぶ」について

園芸農産課

愛知県は、県内の大規模稲作経営者やＪＡあいち経済連などの農業団体とともに、「愛ひとつぶブランド化推進協議会（以下、協議会）」を2017年に設立しました。協議会では、農産物検査等級1等及び玄米蛋白質含量6.4%以下など良食味につながる独自の基準を満たした水稻「愛知123号（品種名：なつきらり）」を新たなブランド米「愛ひとつぶ」として、2020年産から販売しています。

協議会は、9月18日（土）からの2021年産「愛ひとつぶ」の販売開始に合わせて、「愛ひとつぶ」を製造する精米工場で大村知事が販売開始を宣言しました。

1 「愛ひとつぶ」の特徴

「愛ひとつぶ」は、県農業総合試験場が高温耐性と良食味を併せ持つ水稻として開発しました。夏の高温による米の品質低下（米が白く濁る白未熟粒の発生）が少なく、外觀が美しく、上品な甘みともっちりとした食感が特徴です。

2 販売開始宣言の内容

(1) 日時

2021年9月13日（月）午後1時15分～30分

(2) 会場

ＪＡあいち経済連パールライス安城工場（安城市）

(3) 主催

愛ひとつぶブランド化推進協議会

(4) 内容

ア 「愛ひとつぶ」特徴・販売店等説明

イ 知事による販売開始宣言

ウ 知事による「愛ひとつぶ」の試食

(5) 取材報道機関

テレビ局4社（9月13日放映）、新聞2社（1社9月16日掲載）、業界紙など3社



知事が販売開始を宣言

3 「愛ひとつぶ」の販売

県内のスーパーなど600店舗以上で2022年3月末までを目途に販売されます。

取扱予定店：Ａコープ、イオン、ユニー、ヤマナカ、フィール、ＪＡ直売所等

なお、取扱店舗はスーパー等が決めています

販売予定量：ブランドマークの入った専用袋（2kg、5kg）により約9.5万袋を販売

あいちのフルーツコンテスト及びフェアを開催！ ～愛知県No.1の「ぶどう」「いちじく」を決定～

園芸農産課

愛知県は、JAあいち経済連及び愛知県果樹振興会と共催で、今年もあいちのフルーツコンテスト及びフェアを開催しました（表1）。

このコンテストとフェアは、「ぶどう」と「いちじく」の栽培技術の向上と消費拡大を目的として、旬を迎える8月下旬に毎年開催しているもので、前身の「愛知県果実品質改善共進会」から通算して、「ぶどう」は43回目、「いちじく」は41回目の開催となります。

今年は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底したうえで開催しました。

表1 令和3年度あいちのフルーツコンテスト及びフェア開催実績

品目	月日(曜日)	内容	会場
ぶどう	8月20日(金)	コンテスト	久屋大通公園フラリエ
		フェア	イオンスタイル豊田店
いちじく	8月31日(火)	コンテスト	JA西三河本店
		フェア	イオン岡崎南店

1 あいちのぶどうコンテスト

「あいちのぶどうコンテスト」には、本県主力品種の「巨峰」を始め、「シャインマスカット」や「クイーンニーナ」など、生産者自慢のぶどう14品種101点が出品されました。

審査は、県農業総合試験場、JAあいち経済連等の農業技術者6名で行われ、果実の外観、糖度、食味を総合的に判断し、特選12点、入選8点を選出しました。最高賞の農林水産大臣賞には、東浦町で生産された「クイーンニーナ」が選ばれました。

2 あいちのぶどうフェア

「あいちのぶどうフェア」では、コンテストに出品されたぶどうの即売を行いました。

消費者は、色とりどりのぶどうから気に入った品を買い求め、販売開始から3時間で売り切れてしまうほどの盛況ぶりでした。

愛知県のぶどうの魅力を消費者に伝える良い機会となりました。



農林水産大臣賞の
「クイーンニーナ」



ぶどうコンテストの様子



ぶどうフェアの様子

3 あいちのいちじくコンテスト

「あいちのいちじくコンテスト」には、本県主力品種の「榊井ドーフィン」165点、「サマーレッド」50点の計215点が出品されました。

審査は、県農業総合試験場、JAあいち経済連及び青果物市場等の関係者8名で行われ、果実の外観、糖度、食味を総合的に判断し、特選19点、入選46点を選出しました。最高賞の農林水産大臣賞には、安城市で生産された「榊井ドーフィン」が選ばれました。



農林水産大臣賞の「榊井ドーフィン」

4 あいちのいちじくフェア

「あいちのいちじくフェア」では、コンテストに出品されたいちじくの販売を行いました。

約550パックのいちじくが3時間で完売となり、いちじくの人気の高さがうかがわれました。また、幅広い世代の方々に、いちじくの美味しさを知ってもらえる良い機会となりました。



いちじくコンテストの様子



いちじくフェアの様子

5 今後の展開方向

「あいちのフルーツフェア」は、これまで別々に開催してきた果実品評会や販売促進の取組をひとつにまとめ、相互に連携することで、効果的に県産果実の消費拡大を図ることを目指しています。

愛知の果物が消費者にとって、より身近で魅力的なものとなるように、これからも取り組んでまいります。

駅構内に「花の自動販売機」を設置 ～いつでも手軽に花のある生活を～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

株式会社日比谷花壇と株式会社ランドフローラは共同で小田急新宿駅西口付近に期間限定で「花の自動販売機」を設置しました。

1 取組の概要

花を贈ること、花を飾ることを通じて、花のある生活を広めるため、通勤・通学や買い物のついでに時間を気にせず気軽に購入できる「花の自動販売機」が小田急新宿駅西口付近に7月5日から9月30日までの約3ヶ月間設置されました。

気軽に購入できるサイズと価格帯の商品として、おみくじがついて生花が1本入った「フォーチュンフラワー」(500円)や生花のボックスアレンジメント(2,000円)、ドライフラワーのスワッグ(1,100円)などが販売されました。商品は花が傷まず、持ち運びしやすいようにバルーンを用いたパッケージになっていたり、持ち帰り用の袋が付属していたりするなど非常に工夫が凝らされています。

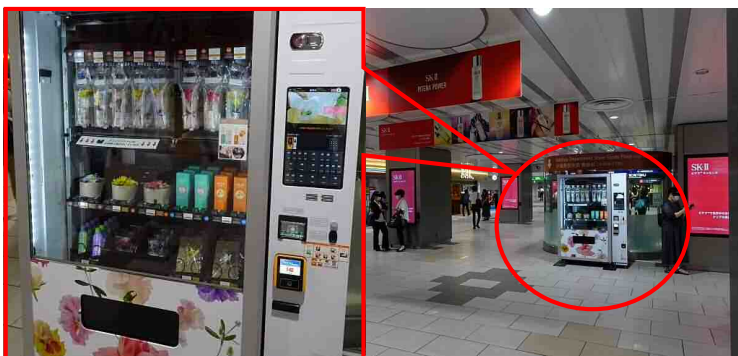
2 販売の状況

(株)日比谷花壇に話を伺ったところ、いくつかある商品の中でも、ワンコインで買える手軽さや、おみくじ付きで楽しめることなどが受け「フォーチュンフラワー」の売れ行きが良かったとのことでした。自動販売機の利用者は学生や若い女性社員が多い印象でしたが、仕事帰りの男性の利用も見受けられたそうです。また、電車の運行時間内に利用可能で、夜間は24時半過ぎまで購入できることから、近隣のフラワーショップの閉まる20時以降の利用も多く、販売全体の3割を占めていたとのことでした。

3 今後の展開について

今回は期間限定の設置でしたが、多いときで1日に3～4回も商品補充が必要なほど売れ行きは良く、好評であったため、今後は別の場所への設置なども検討していきたいとのことでした。

コロナ禍にあって花の業務需要が落ち込む中、個人消費は増えています。このような取組を通して、これまで花を買ったことのなかった消費者が興味を持つことで花の需要拡大につながることを期待されます。



設置された「花の自動販売機」



売れ筋の「フォーチュンフラワー」

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2年実績	327	168 (51%)	286	327	三重 (49%) — —
3年見通し	271	139	295	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
8月の長梅雨により生理落果が発生し、入荷量は平年より少ない見通し。また、露地柿の入荷開始は平年10月中旬頃だが、今年は数日早い予想。 果実の大きさは前年並で、L・2L中心の入荷となる。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや上回る見込み。			市場入荷量は年々減少傾向で、関東向けの出荷が主力となっているが、産地である中京地区への出荷量も維持していきたい。 地元小売店の売り場が他産地の柿や他品目に置き換わらないよう、より多くの出荷をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
2年実績	1,524	1,271 (83%)	336	327	静岡 (16%) 岐阜 (1%)
3年見通し	1,500	—	300	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知中心に静岡などから入荷する。愛知は5月と8月の長雨で生理落果が生じ、出荷量は前年並～減少する見込み。また生育は前進しており、露地ものは10月上旬から入荷する見込み。 入荷量は前年並、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。			「りんご」「みかん」「なし」など競合する果実が豊富な時期にあたるが、競合産地が少なく引き合いも強いので、安定した品質の「柿」を消費者に提供することが重要である。このため、選果選別を徹底するほか、産地の出荷動向などの確な情報が求められる。		

名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し

名古屋市中央卸売市場

9月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)				
				上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	38,706	216	234	216	192	北海道 40%	
	29年	33,600	284	276	291	274	長野 25%	
	30年	37,656	185	183	171	198	茨城 7%	
	元年	37,787	234	246	227	223	群馬 6%	
	2年	36,853	195	206	192	185	青森 5%	
	5ヵ年平均	36,920	223	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	32,400	213	—	—	—		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野を中心に入荷する。切り上がりが早い見通し。葉菜類は概ね生育順調。果菜類は産地の切り替わる品目が多く、前年の入荷量を下回る見込み。 入荷量は前年並をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
	<p>北海道、長野を中心に入荷する。切り上がりが早い見通し。葉菜類は概ね生育順調。果菜類は産地の切り替わる品目が多く、前年の入荷量を下回る見込み。 入荷量は前年並をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
	だいこん	28年	1,784	168	156	172	181	青森 52%
29年		2,212	85	80	72	112	北海道 20%	
30年		2,662	105	117	93	113	新潟 8%	
元年		2,152	84	92	79	86	千葉 8%	
2年		2,321	102	118	96	98	愛知 6%	
5ヵ年平均		2,226	106	110	100	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		2,300	95	95	95	95		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、北海道を中心に入荷する。下旬頃に後続産地の千葉、愛知の入荷が始まる予想。8月の長雨によるは種の遅れがあり、中旬頃に入荷量の減少が懸念される。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
<p>青森、北海道を中心に入荷する。下旬頃に後続産地の千葉、愛知の入荷が始まる予想。8月の長雨によるは種の遅れがあり、中旬頃に入荷量の減少が懸念される。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>								
にんじん		28年	2,027	266	304	292	228	北海道 95%
	29年	2,865	90	98	83	88	青森 4%	
	30年	2,262	203	210	207	194	中国 1%	
	元年	2,464	102	116	104	93		
	2年	2,663	126	127	131	113		
	5ヵ年平均	2,456	150	155	158	139	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	2,200	160	150	160	170		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、一部青森からも入荷する。北海道は7月の高温と干ばつの影響で立ち枯れが発生し、平年より入荷が少ない予想。下旬はさらに入荷が少なくなり、高値となる見通し。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
	<p>北海道を中心に、一部青森からも入荷する。北海道は7月の高温と干ばつの影響で立ち枯れが発生し、平年より入荷が少ない予想。下旬はさらに入荷が少なくなり、高値となる見通し。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	28年	129,927	316	309	321	315	北海道 28%	
	29年	139,763	201	193	181	229	長野 15%	
	30年	134,292	264	271	258	263	茨城 13%	
	元年	135,007	217	227	207	218	群馬 12%	
	2年	136,996	245	260	242	233	青森 7%	
	5ヵ年平均	135,197	248	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	132,000	270	—	—	—		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	9月は気温低下や大雨の影響で果菜類や葉菜類で不足感が生じ高値となった。品目により生育遅れがみられ、10月も一時期品薄となるか。本州に接近している台風による関東近郊産地への影響が心配される。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
	だいこん	28年	12,467	149	144	151	150	青森 40%
29年		12,451	77	73	61	97	北海道 27%	
30年		12,365	98	107	89	100	千葉 19%	
元年		11,155	81	89	73	82	茨城 5%	
2年		11,550	98	116	94	85	岩手 3%	
5ヵ年平均		11,998	101	106	94	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		11,000	95	105	95	85		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
青森、北海道、千葉からの入荷が中心となる。主力の青森、北海道は終盤を迎える。量を減らしていく北海道に替わり、後続の千葉は生育順調で下旬に量を増やす。端境期なく、安定した出回りを見込む。入荷量、価格ともに前年をやや下回る見込み。								
にんじん		28年	7,838	261	260	263	260	北海道 89%
	29年	9,057	88	89	82	92	青森 7%	
	30年	7,809	213	221	206	212	千葉 2%	
	元年	8,306	108	112	110	104	中国 2%	
	2年	9,177	125	128	125	123		
	5ヵ年平均	8,437	155	158	153	155	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	8,500	130	120	130	140		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	北海道からの入荷がほとんどを占める。気温が安定し降雨もあって肥大は順調。しかし、中旬以降は干ばつのために発芽不良となった時期のものとなることから入荷量は少なめとなるか。入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

9月14日現在

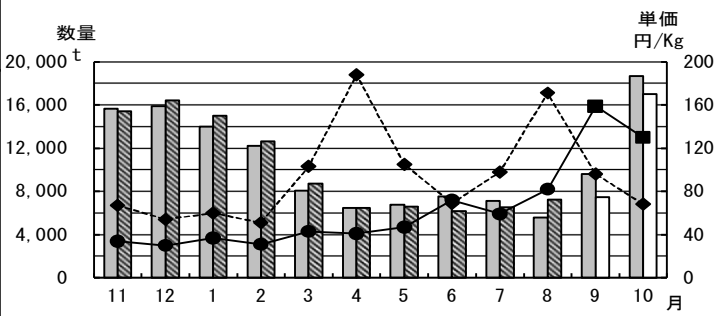
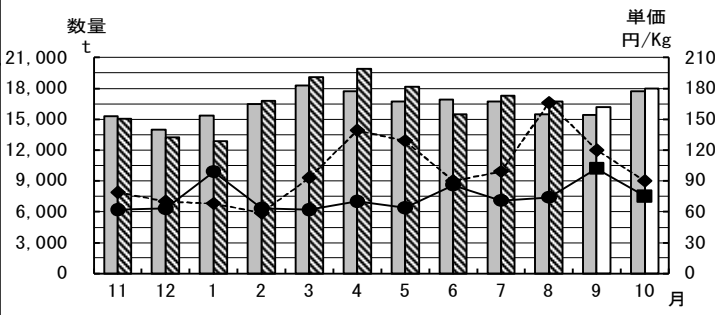
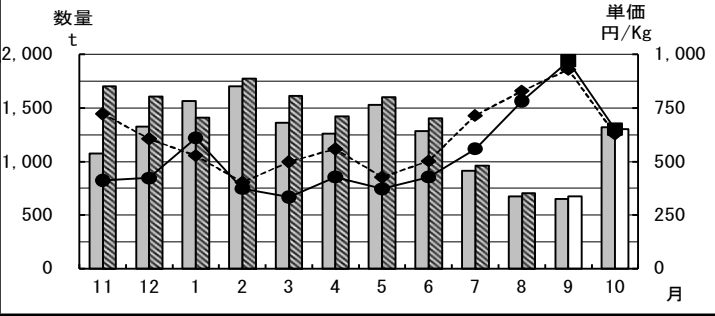
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)						
				上旬	中旬	下旬				
ほうき	28年	2,899	152	122	148	176	長野	96%		
	29年	4,318	55	54	42	75	茨城	3%		
	30年	4,511	103	143	84	92	北海道	1%		
	元年	4,765	57	65	51	56				
	2年	6,026	67	81	63	59				
	5ヵ年平均	4,504	81	89	72	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き			
	3年見通し	5,000	80	100	80	60				
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し				数量 t				単価 円/Kg	
	長野を中心に入荷する。長野の二期作目は生育がやや遅れており、上中旬に入荷増の見通し。漬物・加工業務は厳しい販売が予想されるため、量販店中心の販売となる。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。									
	キヤベツ	28年	4,101	174	121	183	219	群馬	39%	
29年		4,818	65	67	54	75	長野	33%		
30年		4,924	92	94	81	107	茨城	12%		
元年		4,804	75	87	83	61	愛知	8%		
2年		5,154	87	95	95	76	北海道	7%		
5ヵ年平均		4,760	96	91	98	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き			
3年見通し		4,800	80	80	80	80				
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し				数量 t				単価 円/Kg		
群馬、長野、茨城を中心に入荷する。雨天により入荷が不安定であるが、群馬、長野は中旬まで入荷量維持、下旬より減少の予想。また、茨城は中旬から、愛知は下旬から入荷増の見込み。 入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。										
ほうれんそう		28年	186	894	1,093	1,002	764	岐阜	66%	
	29年	274	618	653	545	725	愛知	16%		
	30年	218	798	872	818	736	茨城	7%		
	元年	268	668	679	632	687	長野	4%		
	2年	250	758	813	729	731	静岡	4%		
	5ヵ年平均	239	734	774	710	729	前年及び本年の 入荷量・価格の動き			
	3年見通し	260	700	750	700	650				
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し				数量 t				単価 円/Kg	
	岐阜を中心に、愛知、茨城などから入荷する。は種量は平年並。愛知はハウス中心に上旬から少しずつ入荷開始、露地作は下旬頃から入荷開始の見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。									

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

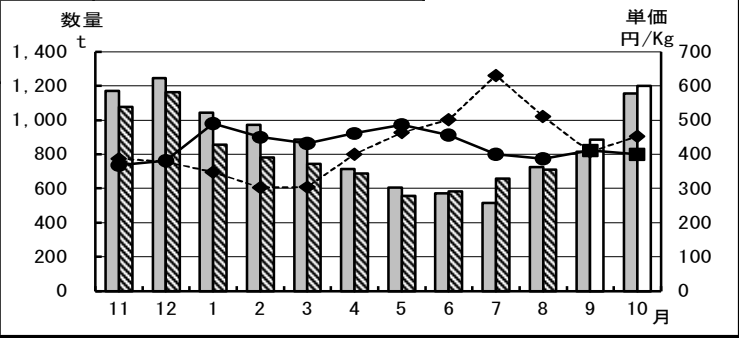
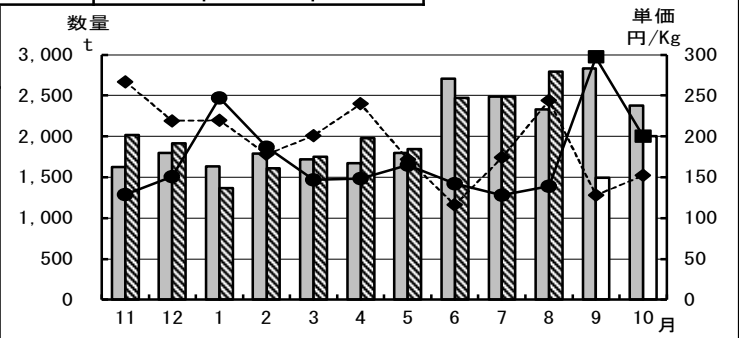
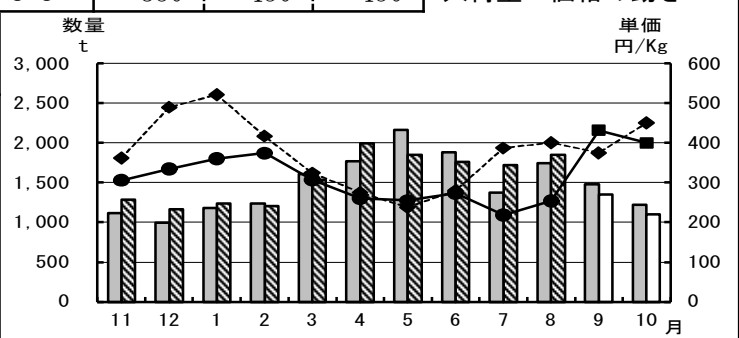
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%) (愛知産比率)			
				上旬	中旬	下旬	
ほうき	28年	14,716	143	119	144	158	長野 79%
	29年	17,700	55	54	46	64	茨城 13%
	30年	17,065	102	138	89	84	群馬 5%
	元年	17,523	57	66	56	52	北海道 3%
	2年	18,691	68	87	65	53	
	5ヵ年平均	17,139	83	92	78	79	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	17,000	130	180	120	90	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、茨城などからの入荷となる。長野は大雨による外葉の傷みがあり小玉傾向。中旬以降は回復し増量するか。後続の茨城は低温や曇雨天により生育は遅れ気味で入荷開始が遅れる見込み。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>				
	<p>数量</p>  <p>単価 円/Kg</p>						
	キヤベツ	28年	16,686	166	114	174	205
29年		18,246	56	59	48	63	岩手 14%
30年		18,240	87	87	77	98	千葉 9%
元年		17,568	74	82	78	63	茨城 8%
2年		17,755	90	99	99	74	長野 6%
5ヵ年平均		17,699	94	88	94	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し		18,000	75	90	75	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心とした関東産地及び岩手などからの入荷となる。群馬は概ね生育順調。終盤にさしかかる岩手は気温低下で生育遅れがみられ、下旬に量を減らす。後続の千葉、茨城も若干の遅れがみられる。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>数量</p>  <p>単価 円/Kg</p>							
ほうれんそう		28年	994	851	1,172	896	672
	29年	1,468	507	484	413	667	茨城 21%
	30年	1,232	662	762	676	586	栃木 14%
	元年	1,284	571	569	512	626	岐阜 4%
	2年	1,322	628	702	580	610	埼玉 4%
	5ヵ年平均	1,260	630	710	596	632	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,300	650	700	650	600	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、栃木などからの入荷となる。主力の群馬は、一部で気温低下の影響による生育遅れがみられるものの概ね生育順調。他の産地も生育に問題はなく、潤沢な出回りが見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>				
	<p>数量</p>  <p>単価 円/Kg</p>						

名古屋市中央卸売市場

9月14日現在

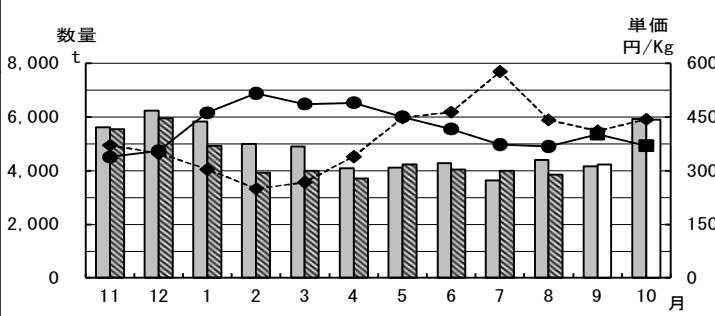
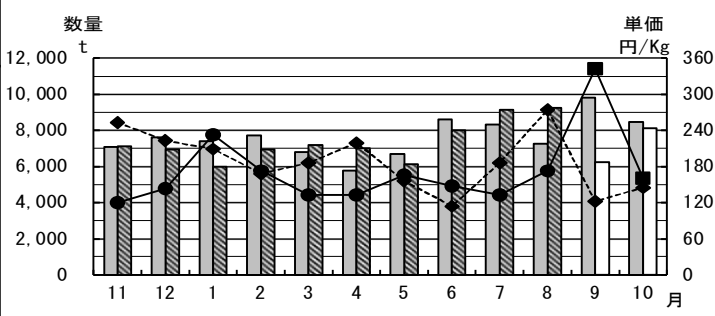
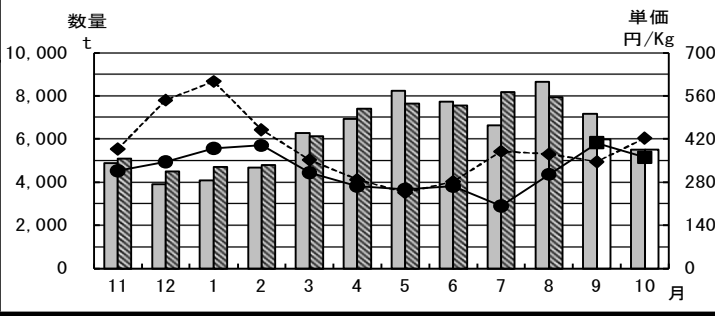
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	1,135	450	472	436	458	北海道 46%
	29年	1,157	374	362	342	423	長野 23%
	30年	1,147	471	515	480	435	富山 6%
	元年	1,083	394	394	396	395	秋田 4%
	2年	1,155	453	474	455	437	中国 4%
	5ヵ年平均	1,135	429	440	422	430	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,200	400	400	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、長野を中心に各産地から入荷する。北海道は入荷ピークとなり順調な入荷を見込む。長野、富山はともに入荷増の傾向、愛知は少なめとなる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
しそ	28年	1,480	421	593	431	318	茨城 51%
	29年	1,981	145	105	105	254	長野 39%
	30年	2,073	207	219	198	203	兵庫 6%
	元年	2,118	162	134	148	216	愛知 2%
	2年	2,380	152	152	154	152	群馬 1%
	5ヵ年平均	2,006	204	197	195	222	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,000	200	220	200	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野、茨城を中心に入荷する。長野の高冷地は早めの切り上がりとなる見込み。茨城は上旬から増加し、中旬頃に入荷ピークとなる予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							
きゅうり	28年	880	545	441	703	494	群馬 36%
	29年	929	377	250	258	894	長野 18%
	30年	1,114	435	417	422	470	北海道 14%
	元年	1,151	330	259	304	466	山梨 11%
	2年	1,222	450	425	425	509	茨城 5%
	5ヵ年平均	1,059	424	353	413	533	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,100	400	350	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
群馬、山梨、長野などから入荷する。夏秋作の切り上がりが早く、抑制産地の作柄も良くないため、全体の入荷は少ない見込み。下旬には冬春産地からの入荷が徐々に始まる予定。 入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	5,873	428	485	424	394	北海道 20%
	29年	5,488	385	351	356	439	青森 20%
	30年	5,703	467	549	472	408	秋田 18%
	元年	5,596	379	370	386	380	山形 7%
	2年	5,924	443	486	452	399	茨城 7%
	5ヵ年平均	5,717	421	450	419	404	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,900	370	380	370	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森などの東北以北産地からの入荷が中心となる。各産地とも生育順調で肥大も良好。一部では大雨により病害発生がみられたものの落ち着いた。稲刈り作業が終わり入荷量は伸びてくる見込み。 入荷量は多かった前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							
し	28年	6,556	398	512	409	301	茨城 62%
	29年	8,710	122	90	88	212	長野 23%
	30年	7,879	205	218	196	202	群馬 5%
	元年	8,139	148	123	134	191	栃木 5%
	2年	8,444	145	145	141	150	福岡 1%
	5ヵ年平均	7,946	194	203	183	207	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,100	160	230	150	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、長野などからの入荷となる。茨城は一部で定植時期を遅らせたものの生育は順調で、順次、量はまとまっていく。長野は生育が遅れ気味ながら、収穫期終盤で量を減らしていく見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
							
きゅうり	28年	5,312	497	407	612	457	群馬 30%
	29年	5,432	333	230	242	634	埼玉 24%
	30年	5,788	403	376	400	437	福島 13%
	元年	6,119	311	235	292	440	茨城 10%
	2年	5,505	423	398	407	468	宮城 5%
	5ヵ年平均	5,631	391	327	387	485	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,500	360	350	360	370	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、埼玉などの関東産地、福島などの東南北部産地からの入荷となる。関東産地では9月の天候不良により生育遅れや樹勢低下がみられるも回復を見込む。終盤の福島は切り上がり及早まるか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

9月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	678	370	379	342	393	熊本 29%
	29年	636	283	293	238	360	愛知 28%
	30年	479	466	435	497	474	山梨 19%
	元年	740	318	308	301	357	徳島 11%
	2年	604	394	411	374	397	群馬 6%
	5ヵ年平均	628	359	356	337	395	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	630	380	380	380	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本、山梨などから入荷する。夏秋作は前進出荷のため、早めに入荷量が減少する見込み。冬春作は8月以降の曇雨天で入荷開始が遅れる予想。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ト マ ト	28年	1,032	549	490	523	649	岐阜 46%
	29年	1,185	401	418	405	384	北海道 17%
	30年	1,002	482	505	434	513	愛知 16%
	元年	1,145	449	588	399	373	熊本 8%
	2年	946	530	563	525	494	三重 5%
	5ヵ年平均	1,062	478	512	455	469	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	940	510	510	510	510	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜、愛知、北海道などから入荷する。夏秋産地と秋冬産地からの入荷が重なるが、8月の天候不順により秋冬産地の入荷が遅れ、全体的には品薄となり、高値傾向となる予想。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	28年	362	1,051	1,031	1,007	1,132	北海道 52%
	29年	470	816	832	809	811	熊本 19%
	30年	458	909	934	933	866	愛知 19%
	元年	503	889	1,013	918	707	茨城 3%
	2年	480	990	953	1,083	949	長野 3%
	5ヵ年平均	454	925	945	947	874	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	450	950	950	950	950	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に愛知、熊本などから入荷する。北海道は入荷終盤、熊本、愛知は入荷開始となり、産地の切り替わりで入荷が不安定となる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

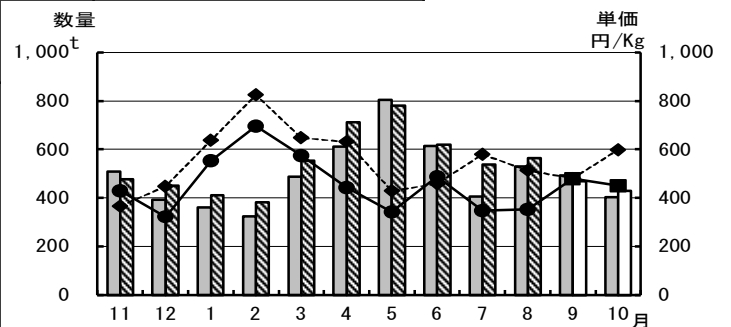
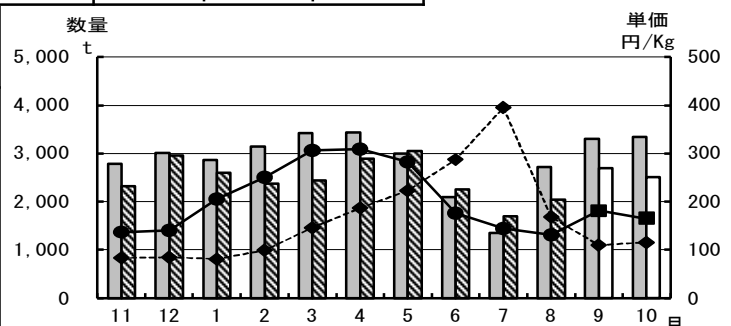
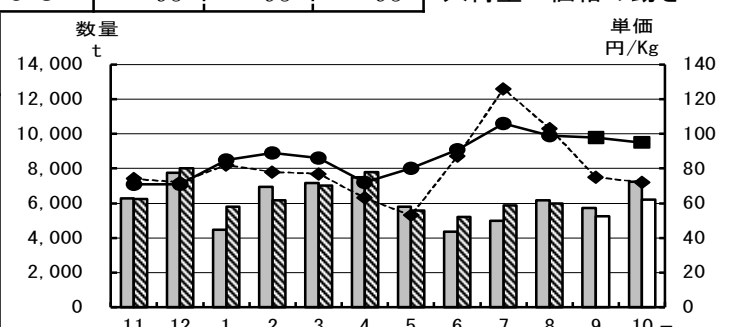
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	3,405	399	388	391	418	高知 35%
	29年	3,408	300	262	249	429	栃木 20%
	30年	2,804	436	391	465	450	群馬 17%
	元年	3,511	328	302	309	374	茨城 14%
	2年	3,158	411	411	402	419	熊本 5%
	5ヵ年平均	3,257	372	348	359	417	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	3,200	395	420	370	395	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知のほか、栃木など関東産地からの入荷が中心となる。高知は生育遅れがあるも増量していき平年並の入荷量を見込む。関東産地も9月の天候不良の影響により一部で生育遅れがみられるも回復を見込む。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ト マ ト	28年	5,771	545	463	531	659	北海道 16%
	29年	6,169	398	400	409	385	千葉 13%
	30年	5,819	485	470	454	542	福島 12%
	元年	5,963	453	555	389	408	熊本 12%
	2年	4,933	558	585	544	537	青森 9%
	5ヵ年平均	5,731	484	491	462	503	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,000	530	600	530	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、福島などから千葉、熊本などへ産地の移行期を迎える。夏秋産地は漸減していき入荷量は平年を下回る見込み。後続の千葉、熊本は8月の長雨の影響で着果不良や生育遅れがみられる。入荷量は少なかった前年並となり、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	28年	1,531	989	942	951	1,081	茨城 19%
	29年	1,796	765	743	783	768	北海道 19%
	30年	1,810	855	857	876	831	熊本 16%
	元年	1,938	855	1,017	863	715	愛知 10%
	2年	1,711	971	951	1,046	928	千葉 9%
	5ヵ年平均	1,757	883	902	900	855	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,700	910	1,100	850	780	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、熊本などからの入荷が中心となる。トマト同様に産地の移行期で、北海道は終盤となる。茨城は生育順調で平年並の入荷量が見込まれる。後続の熊本等からも概ね順調な入荷となる見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	325	627	515	664	697	北海道 23%
	29年	428	335	335	323	457	茨城 19%
	30年	376	577	531	547	660	高知 13%
	元年	525	393	428	400	393	宮崎 11%
	2年	404	599	586	636	601	岩手 10%
	5ヵ年平均	412	492	472	497	546	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	430	450	500	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、岩手を中心に入荷する。成り疲れと天候不順により、盆以降入荷量が減少していたが、各産地入荷量が回復してくる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	28年	3,218	146	155	152	141	北海道 100%
	29年	2,545	93	96	91	91	
	30年	2,661	112	121	107	107	
	元年	2,586	85	84	85	84	
	2年	3,339	116	112	118	117	
	5ヵ年平均	2,870	112	116	116	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,500	165	165	165	165	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からほぼ全量を入荷する。5～7月の干ばつの影響で小玉傾向となり、年間通して少ない入荷となる見通し。加工用ばれいしょも入荷が少なく、価格は高めとなる。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	28年	6,449	76	83	76	72	北海道 99%
	29年	6,339	72	73	72	72	
	30年	6,915	90	97	91	86	
	元年	5,684	75	75	79	75	
	2年	7,225	72	74	73	70	
	5ヵ年平均	6,522	77	81	78	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,200	95	95	95	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からほぼ全量を入荷する。干ばつの影響で全道的に小玉傾向だが、販売はし玉中心に順調である。加工品の入荷も始まり、生食用は減少傾向となる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	28年	1,799	545	438	584	591	茨城 52%	
	29年	1,929	298	265	254	401	岩手 26%	
	30年	2,019	498	458	456	592	福島 7%	
	元年	2,211	366	367	350	378	青森 5%	
	2年	1,898	559	539	576	566	宮崎 4%	
	5ヵ年平均	1,971	450	412	439	501	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	1,950	450	440	450	460		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。主力の茨城は生育が遅れ気味で肥大も悪いものの前年並の量が出るか。岩手は生育順調も終盤にさしかかり漸減する。後続の西南暖地からの入荷量がまとまるのは下旬か。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
	ばれいしょ	28年	7,584	155	155	159	152	北海道 100%
29年		7,443	97	97	98	95		
30年		6,822	117	121	118	111		
元年		7,651	92	91	92	91		
2年		8,506	125	121	124	131		
5ヵ年平均		7,601	117	117	118	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		7,200	180	200	180	160		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は、玉数は少ないながらも大玉傾向となり潤沢な出回りとなったのに対し、今年は干ばつの影響から依然として小玉傾向で出回り量は少なめの見込み。入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>						
たまねぎ		28年	10,726	85	92	85	80	北海道 98%
	29年	10,691	77	76	76	77	中国 2%	
	30年	10,302	101	102	101	101		
	元年	9,755	81	81	82	81		
	2年	10,496	77	78	76	76		
	5ヵ年平均	10,394	84	86	84	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	9,800	110	115	110	105		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は大玉傾向で順調な入荷が続いたのに対し、今年は干ばつの影響で小玉傾向。玉伸びの改善がみられるものの収穫作業は進み、平年より少ない出回り量となる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月17日現在

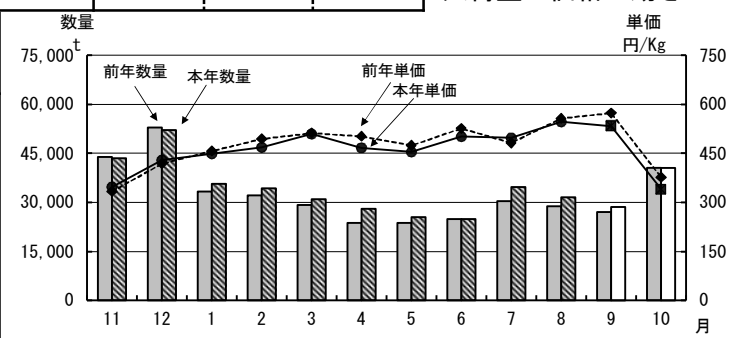
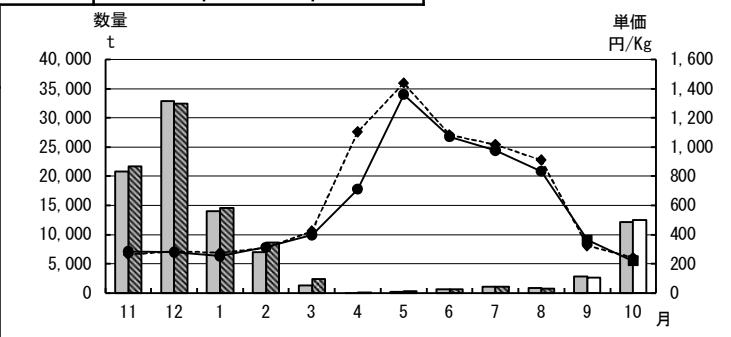
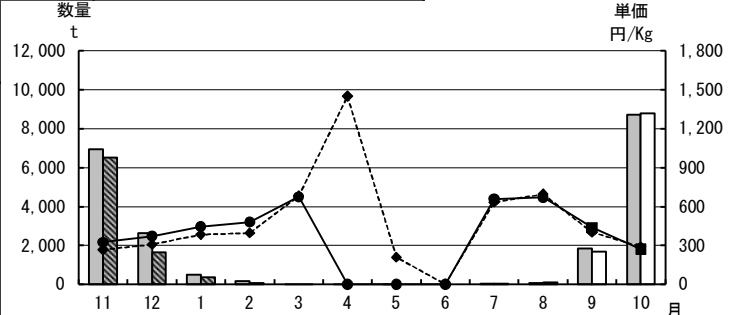
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	11,818	279	306	280	264	和歌山 19%
	29年	10,515	330	348	331	320	長野 17%
	30年	10,895	302	338	306	280	三重 12%
	元年	10,574	326	369	324	304	フィリピン 10%
	2年	10,078	329	369	331	306	熊本 9%
	5ヵ年平均	10,776	312	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	9,600	320	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。生育が前進傾向の品目が多く、入荷開始が早い見込み。りんごは冷霜害による品質低下がみられ、入荷量は前年をかなり下回る見込み。 果実全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
みかん	28年	3,360	261	224	187	148	三重 38%
	29年	3,124	241	262	240	235	熊本 28%
	30年	3,246	250	260	252	248	和歌山 15%
	元年	2,981	243	261	243	236	静岡 12%
	2年	3,257	256	273	251	254	愛知 3%
	5ヵ年平均	3,194	250	256	234	223	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	3,200	250	260	240	235		
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	三重、熊本、和歌山などから入荷する。前年より入荷は前倒し傾向にある。L、M玉中心の入荷となる見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
かき	28年	1,900	263	286	254	268	和歌山 81%
	29年	2,002	228	254	221	225	愛知 8%
	30年	2,068	263	303	258	254	岐阜 7%
	元年	1,913	243	272	235	244	奈良 3%
	2年	1,970	280	298	262	294	三重 2%
	5ヵ年平均	1,971	255	283	246	257	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	1,900	270	280	270	260		
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	和歌山を中心に岐阜、愛知などから入荷する。上中旬は和歌山中心の入荷となり、下旬以降は岐阜、愛知が増加する予想。生育はやや前進傾向である。 入荷量、価格ともに、前年をやや下回る見込み。			注：前年の5～6月、本年の4～6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記			

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	42,602	328	352	322	315	和歌山 15%
	29年	44,293	298	326	299	274	青森 12%
	30年	41,391	330	360	327	305	長野 9%
	元年	40,389	335	372	331	308	熊本 8%
	2年	40,562	377	419	358	350	愛媛 7%
	5ヵ年平均	41,847	333	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	40,600	340	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、かき、りんごを中心に入荷する。りんごは小玉傾向で入荷量を減らす見込み。なしは豊水が9月で概ね終了し、新高などが中心の入荷となる。入荷量は前年並となり、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。						
み	28年	13,228	242	254	239	238	熊本 26%
	29年	13,594	204	231	206	183	愛媛 20%
	30年	12,976	237	251	236	227	長崎 20%
	元年	11,691	221	238	221	209	佐賀 14%
	2年	12,185	242	253	232	241	和歌山 13%
	5ヵ年平均	12,735	229	245	227	219	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	12,500	220	230	220	210		
か	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、愛媛、長崎などから極早生中心に入荷する。極早生みかんは各産地生育順調で、九州、四国は入荷量が増え、10月中旬にピークを迎える見込み。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
かき	28年	8,707	265	274	251	272	和歌山 53%
	29年	8,952	226	241	213	227	奈良 25%
	30年	9,192	258	278	243	258	愛知 6%
	元年	8,410	247	266	231	245	新潟 6%
	2年	8,710	290	289	269	311	福岡 3%
	5ヵ年平均	8,794	257	270	241	262	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	8,800	270	290	270	250		
備考	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	和歌山や奈良から刀根早生、平核無、福岡や岐阜から富有柿を中心に入荷する。朝晩涼しく寒暖差があることから着色進み出荷は前進傾向。また涼しいことから秋果実の引合いは強くなる見込み。入荷量は前年並となり、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。						

切花・鉢花の10月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	28年	1,628	83	
		29年	1,415	60	
		30年	1,468	67	
		元年	1,232	57	
		2年	1,230	50	
	5カ年平均	1,395	64		
	3年見通し	1,250	55		
	概要	愛知、長野を中心に入荷する。上旬で長野は終盤となり、全体的に入荷量は少なめで推移するか。コロナ禍の中、業務の動向で相場が動きそう。			
小 ぎ	実績	28年	621	53	
		29年	669	31	
		30年	765	39	
		元年	610	32	
		2年	621	38	
	5カ年平均	657	39		
	3年見通し	630	38		
	概要	愛知、奈良、長野などから入荷する。長野は終盤に向かい、愛知、奈良も数量は多くなく、入荷量は少なめで推移する見込み。			
カー ネ ー シ ョ ン	実績	28年	1,305	46	
		29年	961	43	
		30年	1,351	41	
		元年	1,124	43	
		2年	938	46	
	5カ年平均	1,136	44		
	3年見通し	1,100	45		
	概要	長野、北海道を中心に入荷する。全般にやや前進傾向。愛知も例年より1週間早く始まった。輸入物に関しては比較的順調な入荷見込み。			
か す み	実績	28年	75	165	
		29年	100	120	
		30年	89	165	
		元年	85	146	
		2年	102	133	
	5カ年平均	90	144		
	3年見通し	90	140		
	概要	福島、長野中心の入荷となるが、気温の低下に伴い、入荷量は減少していく。中下旬から南西暖地産の出荷も始まり、極端な品不足にはならない見込み。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆり	実績	28年	310	182		
		29年	295	167		
		30年	324	161		
		元年	293	161		
		2年	256	182		
		5カ年平均	296	170		
	3年見通し	280	175			
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、高知、宮崎、埼玉、北海道から入荷する。中下旬から暖地作の入荷もまとまってきそう。LA、鉄砲についても上旬は多くないが、中旬以降は暖地作が増えていき、極端は品薄感はなさそう。</p>					
洋らん	実績	28年	588	75		
		29年	471	64		
		30年	585	69		
		元年	406	73		
		2年	298	100		
		5カ年平均	470	74		
	3年見通し	350	80			
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島などの国産に加え、輸入物が入荷する。カトリアは秋咲の入荷が充実する見通しで、胡蝶蘭はさほど多くないが、例年並には入荷する。オンシジウムは下位等級が増える。デンファレはアンナが増え、入荷量も今後増加の見込み。</p>					
ばら	実績	28年	833	86		
		29年	884	73		
		30年	834	75		
		元年	682	73		
		2年	662	80		
		5カ年平均	779	77		
	3年見通し	680	80			
概要	<p>愛知、岐阜、三重を中心に入荷する。気温低下とともに品質は上昇する。輸入物は比較的安定入荷の見込み。</p>					
枝も	実績	28年	1,567	50		
		29年	1,488	48		
		30年	1,442	56		
		元年	1,281	53		
		2年	1,198	56		
		5カ年平均	1,395	52		
	3年見通し	1,200	55			
概要	<p>長野、岐阜を中心に入荷する。長雨の影響から実物は不作。また、高冷地の入荷物は前進している。花木類は高単価の物は販売が苦しく、需要も少ない。</p>					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	28年	20,346	769	
		29年	16,932	883	
		30年	16,157	710	
		元年	15,430	831	
		2年	25,191	764	
	5ヵ年平均		18,811	788	
	3年見通し		24,000	771	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。原木の輸入減少が大きな要因となっている。サイズ別では8号・10号中心の入荷になり、7号未満は特に品薄になる見込み。 前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（60.7%）、2位鹿児島（16.6%）、3位沖縄（8.0%）となっている。</p>				
シヤコバサ	実績	28年	33,336	420	
		29年	42,055	396	
		30年	39,614	400	
		元年	34,347	421	
		2年	34,322	437	
	5ヵ年平均		36,735	413	
	3年見通し		34,000	441	
概要	<p>全体的にロスが少ないため、入荷量は前年並か。サイズ別では7号、5号未満の小鉢中心の入荷となる。6号の注文が集中することが予想され、競売出荷が減少する見込み。 前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（76.1%）、2位埼玉（22.1%）、3位栃木（1.7%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	28年	672,626	184	
		29年	616,535	174	
		30年	578,858	188	
		元年	531,062	178	
		2年	549,026	186	
	5ヵ年平均		589,621	182	
	3年見通し		550,000	190	
概要	<p>入荷量は例年並か。ガーデンシクラメンは10月上旬以降入荷量がピークとなり、4号以上のシクラメンは中旬以降に徐々に増え始める見込み。台風や残暑など今後の天候には左右されるが、相場は昨年より安定すると予想。 前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（35.0%）、2位愛知（31.6%）、3位北海道（5.8%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	28年	11,112	1,549	
		29年	2,902	1,826	
		30年	2,844	1,757	
		元年	3,976	1,662	
		2年	2,225	1,265	
	5ヵ年平均	4,612	1,602		
	3年見通し	2,100	1,286		
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。生産者が減少しているため、比例して生産量も減っている。春から夏にかけて天候不順の時期が多かったが、生育状況は順調である。入荷開始は10月下旬からになる予想。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(86.5%)、2位鳥取(8.3%)、3位静岡(3.1%)となっている。</p>				
カラッコエ	実績	28年	43,730	202	
		29年	39,353	180	
		30年	42,314	196	
		元年	34,413	191	
		2年	26,320	229	
	5ヵ年平均	37,226	198		
	3年見通し	28,000	232		
概要	<p>前月同様、埼玉の山上げ物の入荷が続く。今年は比較的気温が低く、ロスが少ないため、入荷量は前年より増えるか。どの規格においても八重咲きの引合いが強く、競売にかかる割合が少ないため、価格は安定すると予想される。岐阜が主となる一重の2.5号、4号サイズは、生産量の減少に伴い価格は安定か。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(58.3%)、2位岐阜(28.7%)、3位愛知(6.3%)となっている。</p>				
パンジー	実績	28年	613,807	52	
		29年	553,234	46	
		30年	563,988	54	
		元年	528,529	48	
		2年	514,640	55	
	5ヵ年平均	554,840	51		
	3年見通し	500,000	54		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。天候による影響もあるが、コロナ禍による影響で、資材の不足や品質面での差異がみられ、例年並の作付け予定を行ったものの、生育の遅れが懸念される。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(32.3%)、2位三重(12.3%)、3位奈良(12.1%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.580
2021年10月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434